

---

# 詩集

竜崎太郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

詩集

### 【Nコード】

N4389E

### 【作者名】

竜崎太郎

### 【あらすじ】

竜崎太郎が、貴方の為に言葉達を集めてみました。

## 雨

### 『雨』

雨はどうしてふるのかな

もしもそれが 人に恵みを与えてくれるものならば  
空が晴れたら たくさんたくさん感謝しよう

雨はどうしてふるのかな

もしもそれが 悪い心を洗い流すものだとしたら  
空が晴れたら ちよつと優しくなってみよう

雨はどうしてふるのかな

もしもそれが 神さまの涙なのだとしたら  
空が晴れたら 僕もいっしょに笑ってあげよう

### 『墮悪』

硝子ガラスの靴 落としましたよ

いつもの言葉 振り向く貴女あなた

甘い誘惑 ようこそ僕の世界へ 愛しの標的さん

一夜の夢 最高の宴パーティ

逝かせてあげる 堕としてあげる

全てを賭けてお相手します 愛しの玩具さん

愛をくれ 快楽をくれ 君をくれ 全てをくれ

愛をあげる 快楽をあげる 僕をあげる 全てあげる

ただ 明日になれば全てを忘れ離れるけれど

一度で良い 今日だけで良い

全部忘れて 忘れさせて

二人だけの今でもっと遊びましょう

## 救世主

### 『救世主』

この星に生まれて 多くを見てきて諦めた  
壊れたもの 寂れた街 腐る人々 錆び付く心  
ただ滅びてゆくばかり

君に出逢って 変わった心  
強くなるよ 誰よりも  
優しくなるよ 誰にでも  
僕が世界を変えてみせる

世界が終わってしまう前に  
君が穢<sup>メシヤ</sup>れてしまう前に  
僕は救世主になれるかな

### 『Violet Violence』

闇の向こうで妖しく光る 赤い瞳が二つ  
声を殺して身を潜めて 貴女<sup>あなた</sup>の傍に歩み寄る  
貴女<sup>あなた</sup>の心を溶かす為 貴女<sup>あなた</sup>を紫で包む為  
本能のままに襲い掛かる 硝子<sup>ガラス</sup>の身体<sup>カラダ</sup>を碎き散らす

爪を生やして 身を切り裂いて  
牙を剥いて 喰らい付いて  
角を出して 突き破る

愛して 騙して 奪って 壊して  
翼を広げ闇に帰る  
この僕の尾が見えるかい

『I・S』  
アイズ

僕の視線に気付いてくれよ  
ずっと君を傍で見てる、EYES  
アイズ  
僕の方を向いてくれよ  
いつまで経っても君の心は、ICE  
アイズ

僕が目を閉じ両手を広げたら  
それが君を受け入れる、合図  
アイズ  
僕が今永遠に誓うよ  
君だけをずっと、愛す（アイズ）

いつかきつと必ず 君を僕だけのものにしてみせる

『L・O・S・T』

永遠の愛という誓いなど ただの言葉でしかなくて  
あなたの瞳の奥の氷が 私の心を凍て付かせるばかり  
ただ流れる時間が 傷を作りそれを広げ癒す事は無い

私を見て私に触れてくれないならば  
全てを終わらせて それが私の最後の望み

明日からまた 私は愛を求め彷徨う旅人

今 千年の恋に決着を

L. a s t O. f S. t o r y T. o y o u . .  
I L. O. S. T. L. O. v e r s S. w e e t T. i  
m e . . .

## J I G O K U

### 『J I G O K U』

今日もうるさいアラームで目覚め 地獄の始まり

今すぐ起きないと 鬼が僕を叩き起こしに来る

冷めた親の顔 なつかない犬 貧乏な家 逝ってきます

校門が ああ僕にはH E L L ー S G A T Eに見えるよ

ようこそ地獄へ まずはアイツのおはようパンチ

教室が ああ僕には地獄に見えるよ

ようこそ地獄へ 机の花束はいつもの事

先生が ああ僕には閻魔様に見えるよ

ようこそ地獄へ 僕だけに当てるのはやめて

血の池地獄で鯉が泳いでる 君もここから出たいのかい

針山地獄で鬼が群れてる こっちを見るな僕に気付くな

ああ早く天国<sup>いえ</sup>に帰って遊戯<sup>ゲーム</sup>しよう

### 『D a r k E r o s F i n g e r』

灯りを消して 僕が生み出す 闇の世界

薄い光に照らされて 魔物<sup>あなた</sup>となって貴女を襲う

今 黒炎で心を溶かす 乱れ淫れて踊るが良さ

人は皆 欲に溺れて 恋に堕ちる

いくら理性で隠していても 皮を剥がせばただの獣



今 愛の神の名の下に 本能に従い狂うが良いさ

印の指 人を指す指 約束の指

僕が一番使うのは どの指でもない貫く指

今 この刺激によって 声を上げて逝くが良いさ

### 『爆走族』

退屈な日々に別れを告げて

あの日覚悟を 決めた我が道  
特攻服を着込んで騎<sup>マトイ</sup>り込んで  
走り始めた 我が相棒<sup>バイク</sup>

全てを他人のせいにして

邪魔なものなど全て潰して

ただ往くのみ 己が道  
赤光<sup>サイレン</sup>などに恐れは無い

命を賭けて 爆音響かせ

明日が来ても 止まりはしない

愛しの・・・

『愛しの・・・』

こんばんは 愛しの・・・

キミと出逢って今日で一年

シャイな僕は未だに電話も出来ないけれど  
安心して 番号はちゃんと知っているよ

いつもあの場所に居るのは

僕に逢いたいからだろう？

いつも大きな声で話すのは

僕に聞いて欲しいからだろう？

いつも赤い靴を履くのは

僕に見付けて欲しいからだろう？

一昨日はじつとこっちを見ていた

恥ずかしがらずに 僕はここだよ

昨日は沢山擦れ違ったね

勇気を出して 話し掛けてよ

今日は奴と喋っていた

青い炎で妬き焦がしてあげる

少しずつ少しずつ キミに近付いて・・・

擦れ違い様 キミの匂いを吸って・・・

何度妄想しようとも

滾る欲求変わらぬまま

何度夢で穢しても

現実では冷たいキミ

僕を壊して狂わせて

ああ何と 何と何と何と

罪なキ・ミ

『続・愛しの・・・』

おやすみ 愛しの・・・

今夜も夢で逢いましょう

ただそれだけが僕の楽しみ

夢の中では僕に笑顔をくれるのに

どうして昼間は顔も見せてくれないの？

恥ずかしがらずにこっちを向いて

僕はずっと君を見ている

写真もあるよ 画像もあるよ

瞳を閉じれば思い出せるし

僕の頭にいる君は 僕の心にいる君は

いつでも僕を受け入れてくれる

いつかこの手で君を捕らえて

ゆっくり ゆっくり 染めてあげるよ

愛でも恋でも何でもいい  
ただ一緒にいたいだけ

ずっとずっとずっとずっと……

願えば叶う訳じゃないけど 少しでも強く願い祈るよ いつまでも

いつかこの手で君を掴んで

ゆっくりゆっくり 楽にしてあげるよ

綺麗な喉に爪を立てて  
翼を広げて空へ発とう

この胸の苦しみこそが想いの強さ  
心の傷の痛みこそが愛の証

おやすみ 愛しの……

今夜も闇で逢いましょう  
ただそれだけが僕の楽しみ

## 薔薇

### 『薔薇』

別れの言葉の重さを知り  
深い愛に気付けた夜  
闇に消えるあなたの影  
振り返りもせず去って行く

あなたの瞳が心を壊し  
あなたの声の色をも狂わせ  
粉になりそう  
流れて逝きたい  
赤い本能叫び始めた

狂愛が凶器に変わる  
あなたを追って  
あなたを絶って  
あの頃と同じ綺麗なあなた  
赤く染まった綺麗なあなた

もうあなたは笑うことさえできないの  
だけど私の頭の中でずっとずっと微笑んで  
もうあなたは喋ることさえできないわ  
けれど私の耳の奥で永久に永久に響いてね

一度失い寂しくなって  
二度失って恋しくなれた  
これから私赤光に追われ

やがてあなたの所へ逝く

### 『悪魔の灯』

人は皆役を持って生まれてくる

悪として生まれたものは魔としてのみ歩く運命

傷付けて裏切って壊して狂わせ生きてきた

淫れて穢れて堕ちていった

周りを潰す事だけで楽を得た

それでもあなたの灯だけは消せず

黒に染まった瞳には眩しすぎ

汚れた胸を締め付けた

清さが美しさが憎く

魅かれる身は崩れ

もうすぐ闇に帰るけれど

どうかあなたはそのままです

世界の心が揺らいでも

どうかあなたは輝いていて

せめてあなたの欠片を持って

次の道を生きてみたい

### 『花のように』

サヨナラの日なんて 来てしまえば軽いもので  
永遠の愛なんて言ってたのに 脆くも崩れた  
どうして私じゃいけないの？

そんなこと本当はわかってたけど 私は私でいたかった

もう泣かないと決めたから  
忘れてしまうと誓ったから

私は笑って ひたすら笑って  
あなたのいない日々を生きてる

あれからいくつも 愛の無い夜重ねてみても  
心の穴まで他の人では埋まらない  
自分を騙して あなたを恨んでみたりもしたけど  
独りの夜には心が揺れる

想い出に溺れて 感情に流される  
私の左手 薬指が泣いてる  
私の右手 あなたの左手探してる

身体からだの傷は治るけど  
精神こころの傷は治らない  
治らない傷そっと隠して  
私は生きてる 笑って生きてる

## 私とあなた

『私とあなた』

「ずっとあなたを見てました」  
のどの奥に引っ掛かってた

たった一言 私の気持ち

勇気を出すのが怖かった

だけど神さまはちゃんと見ててくれたのね  
あの日からずっと 私の隣にはいつもあなた

出逢った春の日 私の心に桜が咲いた

懐かしい夏の日 太陽よりも眩しいあなた

二人の秋の日 今が続くの願い続けた

寒い冬の日 あなたの右手で温められた

机の上にはケーキと花束 今日は記念日

あなた本当に私を喜ばせるのがうまいのね  
でも最高のプレゼントは あなたがここにいること

今なら言える 私の気持ち

あのととき以上の深い言葉

「ずっとあなたを愛してる」

『涙の詩』



聞こえるよ 本当の声  
気付いてるよ 心の涙  
傷を隠して生きてても 消せない痕を感じるよ

幸せ求めて 彷徨っているのかい？  
答えのない道 探し続けてるの？

いつも眩しくなくていい  
時には灯かりが消えてもいい  
いつも走ってなくていい  
時には立ち止まってもいい

心に嘘をつかないで  
路には涙でしか流せないものもある  
窮屈な仮面を外して  
本当の君で出ておいで

いつも強くなってもいい  
時には弱さを見せてもいい  
いつも笑ってなくていい  
時には泣いたりしてもいい

答えなんてきつと誰にもわからない  
だけど誰に聞いてもいいんだよ  
君の寂しさ埋められるなら  
いつか一緒に歩いてほしい

## 『夏の幻』

季節が変わるように 突然現れた君  
僕の心を奪っていった

太陽のように 輝く君  
僕の夏は君との夏

海を見て 潮を感じて  
君を見て 恋を感じて

陽炎のように 消えた君  
僕の夏は終わりを告げた

幻のように 想う君

僕の心は今もあの夏の中

空を見て 風を感じて  
君を見て 寂しさ感じて

君は夏の幻  
あの日にもう一度帰りたい

## 虫の詩

### 『虫の詩』

強い虫がいる 弱い虫もいる  
人に好かれるもの 嫌われるもの  
他のものを食らうもの 他のものに食われるもの

虫は登る 大樹に登る  
枝は無数に 道は無数に  
風が吹く 雨が降る  
それでも登る ひたすら登る

時には助け合い 時には誰かの餌食となり  
時には寄り添い 時には別れ  
無数の未来へただ登る

己が選んだ道を経て 自分だけの過去を持って  
そうして手に入れた果実は きつととても美しく 美味しいのだろう  
虫は何を想って 眠りに就くのか

### 『色』

赤い叫び (Red Shout)  
青の呪縛 (Blue Spell)  
黄色い夜 (Yellow Night)  
橙色の心 (Orange Heart)

緑の世界 (Green World)  
紫色の暴力 (Violet Violence)  
桃色の宝物 (Pink Treasure)  
茶色い言葉 (Brown Ward)  
灰色の恋人達 (Gray Lovers)  
白の時間 (White Time)  
永遠の黒 (Black Endless)  
銀色の道 (Silver Road)  
黄金の衝撃 (Gold Shock)

『異色』

赤い叫びを聞け  
黒く燃ゆる炎を見よ  
虚空の心はただ白く  
銀の鉄のやうに固く閉ざされる

緑を失い  
青き海を穢し  
茶色い愚民共は  
ひたすら黄色い声をあげて笑う

紫色の夜に  
橙の灯のもと  
桃色の衣と戯れる彼の記憶は  
金色のものとなった

## 格言

### 『格言』

「可愛い子では又いとけ」

つまり、できるときにできる事を。

「嘔吐きは国会議員の始まり」

つまり、嘘はよくない。

「飛ぶ鳥どうせ飛ぶなら汚しまくり」

つまり、人間とはそういうもの。

「同情するなら愛をくれ」

つまり、愛が一番。

「俺の腰は紙より軽い」

つまり、すぐに動くという事。

「オナニー場所を選ばず」

つまり、欲求には逆らえない。

「女子高生は世界を救う」

つまり、女子高生は心に平穏をもたらす存在である。

「可愛い妹にはデートをさせろ」

つまり、妹がいる人は紹介して下さい。

「ポーカーフフェイスも三度まで」

つまり、あんまり調子に乗られるとイラピクを隠せねえ。

「愛は金なり」

つまり、深い愛には多くの金がかかっている。

「ギガ拒否」

つまり、すごく嫌なことはハッキリ拒否しよう。

「最初は痛いもの」

つまり、処女も我慢していればいずれ気持ち良くなる。

「本物はL」

つまり、本当に凄い人は中身と外見が合わない。

「デブの暑がり」

つまり、不快の原因は自分にある事もよくある。

「大町ミスカラ店」

つまり、順番が違うだけで意味が通らなくなる。

「彼女は自慢するものにあらず」

つまり、彼女を自慢する奴はウザイ。

「華麗なるスルー」

つまり、つまらない事は綺麗に無視しよう。

「トイレは用を足す所」

つまり、ワックス小僧とトイレSEXカップルは消えろ。

「狂気は凶器」

つまり、感情とは危険なもの。

「勃つものも萎える」

つまり、ブサイクはまず鏡を見て己を知れ。

「馬鹿犬開口」

つまり、暑い。

「愛と性欲は紙一重」

つまり、そーゆーコト。

「カルピス滴るイイ女」

つまり、美人はぶっかけてもらえる。

「あそこも見せ合う良い仲」

つまり、なかよし。

「乳なし美人」

つまり、惜しい事。

「麗しき娘の痴漢」

つまり、嫌がらせが逆に相手を喜ばせる様。

『新・辞書』

sex friend

大切な友達

secret hole

新たな生命が誕生する所

under water

あふれ出した愛

i m p o r t a n t   b l o o d

月に1回訪れる事

c u l p i s   s h o w e r

絶好調

g o l d e n - b a l l   c r a s h

激痛が走る



焉

『焉』

人に飲まれ 人に流され 人に溺れて 濁った瞳で果てを見て 微動して 絶えた

それは何より重く 永く引きずられ 傷はただ増え続け 瞬き想い果てた

何故か少しずつ碎けて 粉になって 風に吹かれて 消えた  
遙か彼方で光り それだけで満足できて 眠った

癒えず 治まらず 見えず 失った

最後と知って 終わった

遂に 死んだ

『交差点』

振り向けば あなた

手を伸ばしても 届かない

遠く見える君

目と目が合うことは もうない

二人の道は途切れ途切れて

いつまで経っても繋がりはしない

交差点に入る度に迷う

自分の足が踏み入れるべき場所は何処

信号が変わって急かされる  
この世に考える暇はない

考えて出る答えもなく  
二人は擦れ違えばかり

### 『悪夢』

また眠れない夜がきた  
闇が僕を包むと 必ず奴はやってくる  
遠い日から 遥かな時から

今日も眠れる僕の首を絞め  
息絶えそうになると 手を離す  
奴は死神 過去という名の

消えない記憶は傷を作り  
傷は少しずつ広がって  
僕の心を壊してく

### 『転』

何にも染まっていなから髪を染め  
気分が青かったので赤にして  
切れないものがあるから髪を切り

長く巻き付かれているので短くした  
流されるから着替えず  
何も聞こえないよう音を聴いて  
人でない動物に触れ  
感じたくない為ひたすら眠る

『悦』

「したい」と君が言ったから八月二十一日はエッチ記念日

『本能』

図書館で エロ本コーナー 探す俺

『願い』

しあわせになりたい

## 絶縁状

### 『絶縁状』

月が 雲が 君を映してる・・・  
道が 街が 君を思い出させる・・・

伸びた髪を切って

燃える写真を見ていると

君の笑顔が恋しくなってきた

あんなに恨んでいたのにね

あんなにひどく当たったのに

こんなに寂しくなるなんて

こんなに愛しくなるなんて

君が好きだから 君が大事だから

君の幸せを願うのが

今の僕にできる事だよ

宛名の無い手紙を書き綴り

一人で勝手な涙を流す

だから

もう君には逢えないよ

沢山のありがとうよりも

沢山のごめんねよりも

さようなら さようなら 胸が苦しいよ

さようなら さようなら 本当は逢いたいよ  
願わくばまた次の命で逢いましょう

頭を振って 大声出して  
記憶の君とも さようなら

# 『Bloody Party』

自分勝手なmonkeyが  
他のmonkey傷付けて  
あざけ笑う声が聞こえる

目糞が鼻糞笑ってる  
馬鹿が馬鹿を育ててる  
愚かで哀れで 嗚呼

退屈な日々と くだらない人間と  
可哀相な自分を見て 嗚呼  
Break down! 何もかも壊し  
Explosion! お前も壊し

血塗れの宴の始まりさ

自分勝手な黒豚が  
他の黒豚喰ってるぜ  
いやらしい音が聞こえる

鼻糞耳糞笑ってる

屑と屑が争ってる  
怒りで憎しみで 嗚呼

窮屈な毎日と 虚しい周囲と  
散らかった部屋を見て 嗚呼  
B l o o d s t o r m ! 皆狂って  
B u r s t ! お前殺すぞ

血塗れの宴は終わらない

『阿』

どんなに強く叫んでも、傷の痛みは自分自身にしかわからない。

『叫び』

さみしい。

**pain**

『pain』

I was a child in those days.

It was possible to do happily  
with everything.

I grew up now.

It is not possible to do happily  
with everything.

Because please, sadness, and  
anger have known everything.

I was a child in those days.

It was possible to do happily  
with everything.

What is the thing that I today  
cannot do?

What am I today?

『いぬ』

おはよう おやすみ  
わたしのいちにち

おきれば ごはんがありました  
ごはんを おいしくたべました

たべたら さんぽにいきました  
さんぽは とってもすきでした

ほかのもの ほかのひと  
しらないもの しらないひと

たくさん たくさんありました  
たくさん たくさんしりました

かみついたり ほえてみたり  
ふれてみたり だきついたり

かえって ごはんをたべました  
つかれて ねむりにつきました

おやすみ さよなら  
わたしのいっしょう

# 『底には』

人が怖くて逃げ出した  
避けて避けられここに来た

深いところに墜ちてしまった



きつとずっと出られない

光がほしいと切に願うも  
身も心も錆び付いてゆく

もう考える力は尽きたのに  
まだ考えたがるこの脳を

誰か壊して 誰か助けて  
楽にしてください

## 夢

### 『夢』

あの頃僕は夢を見ていて  
夢の中には君が出てきて

あの頃僕には傷があって  
君にも同じ傷跡見付けて

あの頃僕は汚れていたけど  
それでも君は触れてくれた

あの頃僕は夢を見ていて  
夢の中には君がいて

あの頃僕には君が全てで  
君も何も怖くないって

あの頃僕は幸せだったよ  
君もそうだと信じていたよ

あれから僕は変わってしまった  
君も少しずつ変わってしまった

あれから僕はここに来て  
君は今どこにいるの

ずっと夢を見ていた僕は 自分で夢を見るのをやめた

何も怖くなかった君は 変わる事への恐怖を知った

あの頃僕は夢を見ていて

今でもたまに夢を見ていて・・・

# 『Yellow Night』

初めてここに来たのはいつだっけ

もうずっとずっと前に来た気がする

あの日にこの事知って

もうずっとずっとここにいるのよ

明るい夜

暗い心を照らせるのはここだけだと思った

黄色い夜

楽しそうな声に私も混ざりたかった

みんなで騒いで楽しくなって気持ちよくなって

一緒にネオンの海に飛び込んで泳いで

嫌なことがあったのよ

嫌なことなんてあったっけ

今はただ全部忘れていたい

忘れさせて

今の私はかごの中の鳥

海で泳ぐ魚だと思っていたのに

この夜は この街は  
私をもう帰してはくれない

『はな』

わたしは、おおきな はな をもってます  
わたしは、ちいさな はな がほしかった

わたしは、きたない はな です  
わたしは、きれいな はな になりたかった

それでもわたしは、 はな なんです  
いっそわたしは、ざっそうになりたかった

それでもわたしは、 はな なんです  
たねをのこさねば、ならないのです

わたしのこどもも、おおきな はな をもつのでしょうか  
しあわせな はな になってほしい

『君』

僕はひとり いつもひとり

君は僕に近付いた

僕はとても戸惑った でも

もう僕にひとりは ずっとない

君は笑顔 優しい顔

君は少し背が低い

僕に届こうと一生懸命 でも

何もしないでいい そのままでいいよ

君は笑顔 いつもの顔

君は取り繕うのが嫌い

僕は愛の歌を歌った でも

あなたの言葉がいい 他の人じゃなくて

君は笑顔 好きな顔

君はとても恥ずかしがる

僕の言葉は一方通行 でも

電話の向こうの声 少し震えてたよ

僕らふたり ずっとふたり

君は僕から離れない

僕も君から離れない だから

今なら君は 言葉をくれるかな

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4389e/>

---

詩集

2011年10月4日19時06分発行